

「令和4年度 学生 FD CHAmmiT 学部提案書に基づく学生への回答書」の掲載について

日本大学では、FD 活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成 25 年度より、16 学部 87 学科、短期大学部 4 学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生 FD や本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生 FD CHAmmiT (ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から 200 名以上の参加者を得て開催しております。令和 2 年度及び令和 3 年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン (Zoom) 開催し、第 10 回目となる令和 4 年度は、対面式とオンライン (Zoom) 式を併用した形式で開催させていただき、ハイブリッド形式の新たな形式での FD CHAmmiT を開催しました。

令和 2 年度の CHAmmiT では、「オンライン授業のミライのカタチ」として、オンライン授業の改善・要望等を話し合い、学部への提案書を作成しました。これを踏まえて、効果的な教育改善の実現に繋がるよう、芸術学部において学生との協議の場を設け、「改善報告書」を作成いたしました。令和 3 年度においては、芸術学部で作成した令和 2 年度の改善報告書の内容をどこまで達成しているのか現状を整理した上で、さらに新たな課題及び提案にも目を向け、「アフターコロナ ～IT 化と大学教育～」について話し合い、芸術学部への提案書を作成いたしました。令和 4 年度はテーマ「あなたにとって、大学とは何ですか?」をテーマとして、FD CHAmmiT 開催当日にまとめられた学部への提案書に対して、学生 (有志の参加希望者並びに大学院生含む)・教員・職員の三者で十分に協議した上で「学部提案書に基づく学生への回答書」を作成いたしましたので、御覧いただきますようお願いいたします。

今後も芸術学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。

(参考)

①「日本大学学生 FD CHAmmiT」って何？

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/fd/fd-chammit/>

②2018 年度は芸術学部で開催しました。

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/uploads/files/20190319142841.PDF>

以 上

令和4年度 学生FD CHAmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

【芸術学部】

令和4年度学生FD CHAmiT学部提案書に基づく改善報告書について

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和4年12月19日	CHAmiT参加者（教職員）及び学生スタッフ、FD委員、教務課員等の計10名がZoomを用いてオンライン会議形式にて1時間30分程度、改善内容に関する意見交換を実施した。 【学部提案書作成ミーティング出席者一覧】 教 員 FD委員会委員長 吉野大輔 芸術教養課程 鈴木 優 職 員 教務課 井上健策 教務課 伊藤 翼 教務課 小林太一 学 生 音楽学科 小鷹狩綾乃 映画学科 高橋 光 文芸学科 宮崎智弘 文芸学科 中濱陽平 芸術研究科造形芸術専攻 小林紗己（計10名）

2 学部提案書の対応について

学部を「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
オンライン授業による影響で先生の負担が増加していることや、学生への対応が不十分な状況が出てきている。		○		令和5年度以降は面接授業（対面での授業）の開講が増加する予定であり、コミュニケーションの向上という観点では、解消が見込まれております。学生への対応が不十分との意見に関しては、科目ごとに開講形態や履修登録者数が異なるため、一概に言えませんが、科目によっては1名の先生が数百人の履修者を担当するため、1名1名の学生の質問等に全て対応し切れていない側面もあります。芸術学部ではなるべく履修制限を施さず、多くの学生に学修機会を提供することを重視しており、適正な履修登録者数を検討し、科目の開講数を検討するなど、運用上の工夫で改善を継続しております。一方で学生の負担を軽減し、自らのペースで受講可能な形式を選択できるように、オンラインでの開講形態は引き続き継続する方向です。その一環として、令和5年度もオンラインでの受講に高い学修効果が見込まれる科目について、メディア授業として開講することを学部方針として決定しています。また、学生による授業評価アンケートの結果に関しては、個人情報の開示範囲を厳格に定め、自由記述欄を含めて教員間で共有し、改善の必要性がある科目に関しては都度面談を実施する、あるいは学生からの評価が高い授業担当教員に関しては、研修会で教職員全体に情報共有を行い表彰するなど、学生への対応の向上に向けての取り組みは継続中です。今回学生から提案された「実習科目におけるフィードバック」に関しては、FD委員会や学務委員会でも共有の上、すぐに授業改善できるよう努めていきます。
他学科との授業交流が不十分で他学科交流が可能な授業をより多く設置してほしい。		○		授業レベルでの交流機会の改善に関しては、他学科公開科目の積極的な拡充が一番考えられます。対面での開講形態が令和5年度以降拡大する中で、各学科の他学科公開科目の拡充も望めますが、一方で科目の特性や履修登録者数の適正化の観点も同時にバランスをとらなければならないため、慎重な検討が必要です。こうした中、令和5年度には新規開講科目として各学科の学生が自治体や企業が抱える課題解決に向けてチームを組んで取り組む「連携型プロジェクト」が開講します。この科目は8学科全ての学生・教職員が横断的に繋がり、それぞれの能力・知識を生かして問題解決に取り組む科目です。さらに授業以外の課外活動では、各種イベントで各学科の交流をさらに拡大することを目指して、令和4年度より開催されている「七夕イベント」や「ハロウィン」、「クリスマスナイト」など、学部側が提供するイベントも学科の垣根を超えて開催されています。令和4年度日藝博覧会では、学生実行委員会からの自主的な企画として、8学科を横断する企画が開催予定で、こうした取り組みを学部としても具体的に支援し、醸成していきます。

令和4年度 学生FD CHAmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

【芸術学部】

2 学部提案書の対応について

学部を「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
通信環境が学部全体的に弱く、Wi-Fiに関しては範囲が限定されているため整備してほしい。		○		令和4年度現在も江古田校舎内のWi-Fiを中心とした通信設備の拡充を進行中ですが、校舎内全域でWi-Fi使用環境を整備するには、大規模な予算措置が必要であるため、令和3年度より大規模教室を中心とした段階的な通信環境整備を継続中です。
授業設備に関して、各学科が保有する設備などを自由に使用できる仕組みにしてほしい。			○	授業設備に関しては、高度な専門専門性を教授するための設備が、各学科で維持管理されていますが、施設設備を適切に使用するには、授業内での経験の習熟や、専門的な知識の取得が必要となるものが多く、全てを開放して共有することは現在のところ難しいです。そのため、比較的学問領域の近接する学科間での相互利用など、どの設備であれば相互利用が可能か、検討を行っていきます。
授業機材の貸出に関して、学生が他学科の機材も自由に借用できるような仕組みにしてほしい。			○	各学科の課題制作に必要とある機材貸出と他学科を含む希望者への貸出に対応できるだけの数を確保できていないケースも想定されます。これを解決する意味でも、今回学生から提案のあった、外部委託による機材等貸出の有効活用に関しては、学部でも検討させていただきます。
授業以外の共有空間がなく、学生が自由に集える空間に不足があるので検討してほしい。		○		学生の交流スペースが少ないという問題に関しては、なるべくフリースペースを確保し、学生へ開放する計画で進行しています。具体的にはA棟地下1階のパソコンルームの解放や学生からも提案のあった、図書館のラーニングcommonsとしての有効活用なども現在検討中です。
履修登録や学校からの連絡等に関わる各種システムの統合をしてほしい。			○	現在芸術学部にはLiveCampusやポータルサイト、時間割検索システムやガイダンスサイトなど様々なシステムがそれぞれの役割を担っています。これらの利便性を少しでも高めるため、認証方法に関しては、学生に配布しているGoogleアカウントに統一化「統合認証化」を令和2年度に行いました。しかしながら、1つのシステムへ統合するには、通信環境整備同様に多くの予算措置と検証にかかる長い時間が必要です。システムの統合に関しては、学生だけでなく教職員にも大きなメリットが生じるため、具体的な検討を継続していきます。
授業評価アンケートの結果を教員がどのように感じ、どのように改善したのか知りたい。		○		授業評価アンケートに関しては、令和3年度より導入したアンケートシステムにより、芸術学部の開講する科目すべてに学生からの評価が成される仕組みに改善し、評価点はもちろん、自由記述に至るまで担当教員が確認しています。また学生の評価が低い、アンケートの回答率が低い、自由記述欄に問題があると判断された教員に対しては、学科主任より面談の機会を設けて改善にあたっています。授業評価アンケートの結果については、内容を高く評価する意見も多数見受けられますので、こうした良い授業を行った教員を学部ではGoodpracticeとして研修会で方法論を共有したり、表彰しています。こちらの模様は、学生にも分かり易く伝わるよう、FD活動の事例を簡単な解説と共に学部特設WEBサイト「日藝CROSS」で活動レポートとして公開しました。今後も芸術学部ではFD活動を組織として向上させるため、年間計画を組んで能力開発に努めていきます。

※令和5年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。

3 芸術学部から学生へのメッセージ

<p>CHAmiTに参加した皆さんには、芸術学部の改善に主体的かつ積極的に取り組んでいただき、御礼申し上げます。</p> <p>大学は、専門的な知識・技能のほか、学生が主体的行動力を身に付けるための教育機関です。授業・サークル活動・日芸祭・日博・各種の制作発表会などは、学生・教員・職員がそれぞれの立場で協力しながら作り上げていく「舞台」です。皆さんには、主体的行動力を身に付ける場として、大いに活用していただきたいと思います。</p> <p>全授業科目に対する授業評価アンケートが年2回、日本大学学修満足度向上調査が、毎年1回（1年生・4年生は2回）あります。アンケートや調査への回答は、時間がかかるものですが、面倒だと感じることもあるかもしれませんが、皆さんが、これらのアンケートや調査に回答し、建設的な改善意見を提案していくことは、授業や大学に対して主体的に働きかけていくことに他なりません。芸術学部では、これらの回答をしっかりと確認し、改善の取り組みにつなげていきます。</p> <p>今回の改善報告のための提案書作成には、有志の日藝博覧会実行委員のメンバーや大学院生など、所属や年代、専門領域を超えて横断的な意見交換を行うことが出来ました。芸術を学ぶ中で、多様な価値観を融合し、イノベーティブな思考で問題を解決できることが、「日藝」の大きな魅力だと学生・教職員でも共有できました。学生の皆さんと協働でより魅力的な日本大学芸術学部を作って行きたいと教職員一同強く感じています。</p>
--